

フェローシップ・ニュース NO,15

2006年2月28日

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日
2006年3月1日

理事長就任のご挨拶

近藤 恒夫

拝啓 例年になく寒さでございましたが、ますますご健勝の事とお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

さて、私こと近藤恒夫は前任者ロイ・アッセンハイマー理事長の死去に伴い、このほど特定非営利活動法人アジア太平洋地域アディクション研究所(略称：アパリ)の理事長に就任致しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

アパリ設立の目的はアジア太平洋地域の依存症の研究と依存症者への支援です。この数年間は本当に薄氷を踏む思いでしたが、故ロイ理事長のもと何とか乗り越えてまいりました。その結果、昨年からはスタッフも増え、業務の質も向上してまいりました。

今後の課題として司法との連携や刑務所内教育への取り組み、そして特に力を注ぎたい事業としては国際協力活動です。元JICA(国際協力機構)の島田尚武氏を新たに理事として迎え、故ロイ理事長の遺志を引き継ぎ、日本のみならずアジア太平洋地域にも目を向け、依存症者の支援に邁進していく所存でございます。

本来なら参上してご挨拶申し上げるところでございますが、略式ながら書中にて就任のご挨拶申し上げます。

皆様のご健康と、ますますのご活躍をお祈り致します。

敬具

理事プロフィール

<新理事長> 近藤 恒夫 (こんどう・つねお) 秋田県出身、北海道育ち
元刑事被告人で薬物依存症者本人。約20年前に東京日暮里にダルクを設立。現在全国に約40ヶ所のダルクが増殖。95年東京弁護士会人権賞受賞、01年吉川英治文化賞受賞。00年より法務省の依頼で刑務所内薬物教育プログラムに民間協力者の立場で参加し始める。現在では法務省の「薬物事犯受刑者処遇研究会」に民間有識者の立場で参加している。趣味はゴルフ。

<新副理事長> 石塚 伸一 (いしづか・しんいち) 東京都出身
85年中央大学大学院法学研究科博士後期課程刑事法専攻を経て、97年九州大学において法学博士号取得。現在、龍谷大学大学院法務研究科(法科大学院)教授。03年龍谷大学矯正・保護研究センター副センター長。専門は、刑事法。05年弁護士登録(第二東京弁護士会)。趣味は絵画・水泳。

<新理事> 島田 尚武 (しまだ・よしたけ) 千葉県出身
70年東京大学法学部卒業後、警察庁入庁。警視庁に配属、その後岐阜、宮城に勤務の後、警察庁刑事局保安部薬物対策課長、香川、岐阜の各県警本部長、北海道警察本部長、警察庁長官官房国際部長を歴任後、退官。01年JICA(国際協力機構)監事を経て、05年より積水化学工業顧問。剣道四段。

<理事> 神山 五郎 (かみやま・ごろう) 東京都出身
東京歯科大学、東京理科大学、東京大学医学部、カンザス州立WICHITA大学大学院卒業。医学・哲学博士。04年理事就任。医療法人社団アパリ・アパクリニック上野理事長。剣道四段。

<監事> 奥田 保 (おくだ・たもつ) 香川県出身
61年早稲田大学法学部在学中に司法試験に合格。62年同大卒業。地検検事、地裁・高裁判事を歴任後、92年依願退官し、弁護士登録(東京弁護士会)。アパリ設立時より監事を務める。近藤恒夫理事長とは、札幌地裁の法廷で、被告人と裁判官という立場で出会う。その後ダルクを支援し、ダルク協力弁護団団長を務める。趣味は合気道・観劇。

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

新理事長挨拶 理事紹介	1
ロイ神父特集 ロイ神父を偲んで	2
ドヤ街特集 東京・山谷	4
体験談・・・ヨシ「司法が私に繋がって」	6
刑務所内ミーティングに参加して アパリ新会員募集	7
アパリからのお知らせ	8

ロイ神父特集

2006年1月5日朝6時頃、アパリ理事長のロイ・アッセンハイマー神父が脳出血のため、帰天されました。

ロイ神父は生前より、明るくパーティーをして見送って欲しいとのことでした。そこで、明るくみんなでパーティーを開き、ロイ神父を偲びました。

**ダルク20周年
フォーラム&懇親会
DVD販売中!**

2005年6月11日に行われた20周年フォーラムの様子がDVDに収められています。ロイ神父の映像もあります。

1枚 3,000円

お申込はメールかファックスで
FAX : 03-5830-1791
メール : info@apari.jp
ご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

「ロイさんを偲ぶ会」に参加して・・・



「ロイさんを偲ぶ会」では祭壇にマックシェイクが並んでいた



ロイ神父への最後のメッセージを伝える近藤恒夫

1月22日(日)13時から17時まで、台東区民会館で「ロイさんを偲ぶ会」が開かれ、全国から約150名の方が参列されました。

祭壇には、ロイ神父の年の数だけ67本ものマックシェイクが飾られていました。ロイ神父の“明るく送って欲しい”という気持ちに添えて用意されたものです。「ロイさんはマックシェイク依存症だったよ・・・、あれは、マックシェイクのオーバードーズ(飲み過ぎ)だと、悲しみから逃れるためにそう言う仲間もいます。実際、年末に仲間に頼んだマックシェイクは冷蔵庫の中に7~8本入っていたそうです。

マック・ダルクにかかわりのある方々が全国から参列され、献花に続き仲間からの話になりました。ロイ神父の死は、「マック・ダルクはそろそろ自立しなさい」というメッセージだと言っている人もいました。ロイ神父の一言一言がどれだけ仲間に勇気を与えてきたのかわかりません。

会場には、ロイ神父の若き日の写真や、病気の仲間たちとの写真が飾られ、若きロイ神父を初めて見たという方は一様に「ハンサム」だと言っていました。終わりにロイ神父の祈りの唱が流され、全員で“平安の祈り”で散会になりました。



古澤清一(ふるさわ・せいいち)
アノニマスネーム：サム
JICAとの国際協力活動でフィリピン・ミンダナオ島の支援をするために現地に派遣される予定。
NAに繋がって19年。

ロイさんの依存はこんなものもあります。

NAミーティングが始まる2~3時間前ミーティングに行く途中にロイさんの隠れた仕事場があるのです。それは今でいうファミリーレストラン、ラーメン屋、喫茶店で、私も早めにミーティング場に向かい話したり、仕事を手伝っていました。信濃町にあったファミリーレストラン「サンバレー」は、NAが初めて開かれたカリフォルニアの地名と偶然同じだと聞きました。築地のラーメン屋は「女王ラーメン」という名で、ロイさんは食べ終わった後に黙想していました。ガラス張りの店で仲間が手を振って通り過ぎて行きました。鶯谷の喫茶店「花屋」は土日の朝と昼の仕事場になっていました。ロイさんの特別量の多いアメリカンもあります。

常連客としていろんなお店にも依存していました。

サム

ロイ・アッセンハイマー 略歴

(14号1頁記載の略歴には一部誤りがありました)

1938年4月6日	アメリカ合衆国ペンシルバニア州で出生
1965年6月12日	司祭叙階
1965年8月	サンフランシスコより貨物船に乗り日本へ
1967年6月	東京六本木・聖フランシスコ日本語学校卒業
1967年8月	三重県松坂教会助任司祭
1970年2月	北海道夕張市清水沢教会助任司祭
1970年10月	北海道苫小牧市旭町教会助任司祭
1972年～76年2月	北海道静内教会主任司祭
1976年2月	NYの神父専門のアルコール依存症更生施設「ゲスト・ハウス」に9ヶ月入寮
1976年12月	日本に戻る。ミニ神父の大宮ハウスに入りミーティングに参加
1977年1月	東京でアルコール依存症研究を始める
1977年7月	北海道・札幌でMAAP(メリノール・アルコール・アシスタンス・プログラム)設立
1978年	近藤恒夫が入院中にロイ神父に初めて出会う
1979年3月	札幌MAC(メリノール・アルコール・センター)設立 責任者
1982年5月	ミニ神父に呼ばれ、近藤とともに上京しマックを手伝う
1982年6月	全国MAC後援会設立(台東区)
1985年4月	東京にDARC(薬物依存症リハビリテーションセンター)設立
1993年3月	JCCA(ジャパン・カリック・カウンシル・オン・アディクション)理事
2000年2月	アパリ初代理事長に就任
2005年3月	脳梗塞で聖路加病院に約1ヶ月入院
2005年5月	ニューヨークに約6ヶ月戻り、メリノール会の病院に入院
2006年1月5日	死去 享年67歳

<近藤恒夫との出会い・・・神父に覚せい剤を打つ！>

1978年に近藤恒夫が薬物の治療のため入院中に、ロイ神父がメッセージを伝えに、病床を訪ねて来た。これがロイ神父との初めての出会いであった。近藤の著書「薬物依存を越えて」ではこう記している。

ある日、北海道の各地でAAの活動を始めたというアメリカ人が私の部屋を訪れた。「私は神父ですが、アル中です」そんな自己紹介をした後、AAの活動の話をした。私は変な神父だと思った。アル中なんてウソに決まっている。どうせ宗教活動が目的で来たに違いない。「バカな神父だな」と腹の中で笑っていた。その出会いが自分の一生を左右するなどとは夢にも思わなかった。

ところが1980年6月のことである。近藤氏はロイ神父に初めて覚せい剤を注射してしまう。翌日逮捕。神の天罰が下ったと思った。その後正式な鑑定結果が出るまでの2週間は泳がされることになり、その間も使用を続けていた。しかし2週間後には再び逮捕されてしまう。神父に覚せい剤を注射したのはきっと俺くらいしかいないだろうと近藤は言う。ちなみに7年の公訴時効はとくに成立している。

近藤は、そのときの札幌地裁の法廷で奥田保裁判官と初めて出会った。またその執行猶予判決のお陰で今のダルクの発展があるのだろう。

現在、アパリの監事となられている奥田保弁護士は当時をこう振り返る。「覚せい剤をやめるためにあらゆる努力をしたがダメでした。どうか私を刑務所にぶち込んで下さい」と近藤さんは裁判長である私に頭を下げた。しかし、落ちる所まで落ちたのだから、もしかしたら、この人なら大丈夫かもしれない・・・と直感的に思ったとのことです。

ロイ神父と近藤の出会い、そして奥田保裁判官との出会い。このような劇的な人との出会いを繰り返し、ダルク、そしてアパリは作られてきたのである。

「薬物依存」DVD販売中！

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX : 03-5830-1791
E-Mail: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。



若かりし頃のロイ神父



夜景をバックにポーズを決めるロイ神父

ボランティアの医療活動

中込良夫先生に聞く。山谷のドヤ街を訪ねて・・・

取材・報告：志立玲子、サム

東京の山谷、ここは日雇い労働者が多く集まる地区としてドヤ街と呼ばれている。ドヤ街のドヤとは、宿（やど）を逆さにしてこう呼ばれる、簡易宿泊所のことである。一泊2千円から2千5百円くらいが相場であるが、定職もなく、日雇い労働にもつけない人にとってはその費用すら支払うことができない。その結果、路上生活者（ホームレス）がバブル崩壊後から急激に増えていった。現在、山谷地区にはホームレスは約1,300人いると言われている。

そんな山谷のドヤ街でボランティアで診療を続ける医師がいる。中込良夫先生である。東京の大病院を60歳で定年退職して1～2年後から、毎週山谷に通い始め20年になる。山谷にいる多く人は朝から酒を手にし、赤い顔をし、どこに行くでもなくブラブラしている光景を目にするとする。

山谷の中心には泪橋交差点がある。ここは江戸時代に小塚原の刑場で処刑される罪人が見送りに来た人を振り返り、別れの涙を流した場所だと言われている。

罪人が別れの涙を流すとき、何を考えて処刑場に向かったのか。この泪橋交差点を渡るたびにいろいろと想像をめぐらせてしまうのは私だけでしょうか。涙を流しながら別れを惜しむほど大切な人がいるのならなぜ罪を犯したのでしょうか。それとも人間とは罪を犯さなければ大切なモノが見えてこないのでしょうか。

ここは又幕末、吉田松陰や橋本左内などが処刑された場所でもある。罪人即ち悪人の枠を超えて、人間の不条理、悲しみを思う場所である。又、近くには吉原もあり、昔貧しい人々が遊郭が集まるこの地に、娘を売りに出すときに涙した場所でもあったとか・・・。

（参照文献：中込先生のこと書かれた今西乃子著『東京・ドヤ街物語 ちかい家族とおい家族』ポプラ社、山友会活動報告書）

1984年に設立された「山友会」という、医師による無料診療やボランティアによる相談援助、炊き出し、パトロールなどを行っているNPOがある。1Fには山友クリニックが、2Fには山友会の休憩所があり、必要な人には昼食が支給される。3F・4Fは事務所になっている。収入源は100%が寄付金によるものだ。メリノール宣教会のグリム神父がこの山友会を、ミニ神父がマックを、そしてダルク、アパリはロイ神父が設立を支援していた。

そこには曜日ごとに様々な経歴の医師たちがボランティアにやって来る。大病院の若い医師は当直明けに一睡もせずにかけてくれることもある。私たちはクリニックの中の診療現場にも立ち合わせてもらった。というより他に居場所がなかったからである。ここでの診療は保険証もお金もいらない。完全に無料で診療を行っている。そして医師たちも無報酬である。誰の顔色も気にせず、保険点数も気にすることなく、医師が患者のことを考えて最善の診療ができる。ここでは医師と患者が本気で向き合えるのではないだろうか？こんな病院があるとは知らなかった。



中込良夫（なかごめ・よしお）先生
皮膚科医、82歳
モットー：
「ロイにならって弱さを売りに・・・」



山友クリニックにて。左が中込先生。右は東洋大学の大学院生



山友会の前でくつろぐオジサン



山友会の看板・・・クリニックと同じビルに入っている

以前に比べるとアルコール依存症で苦しむ人が減り、糖尿病や高血圧など生活習慣病の疾患が増え、また栄養状態が悪く、診察前に食事を提供されている人もいます。



中込先生の専門は皮膚科である。しかし、火傷や湿疹のカルテではなく、彼らに本当に必要なのは「こころのカルテ」だと言う。患者さんと交わることは、苦しんでいること、悩んでいることを分かち合うことである。あるときは食べ物を、あるときは着る物を、またあるときはシェルター（緊急一時宿泊所）の利用を勧めたり、心のサポートをしながら診療している。自分は救い主にはなれない。ただ、できることをやっているだけだと言う。診療が終わった後は山友会の周りはコミュニティの場となり、お茶を飲んだり、タバコをふかしたりしながら仲間との会話を楽しむ場所となる。

2階の休憩室にて：偶然にも見学で知り合った豊島教会のシスター（右側）。左はサム。私たちもお昼のカレーをご馳走になりました。感謝！です。

そして中込先生も仲間に加わる。

薬物依存症者から得たもの

ミーティングに参加して。。。

そんな中込先生は、あるときからアパリクリニック上野に毎週火曜の午前にボランティアでお手伝いに来てくれるようになった。クリニックのデイケアで開かれるミーティングにも必ず参加している。そこには薬物依存症者たちの本音で自分たちのことを語っている光景がある。その光景に中込先生はとても衝撃を受けたと言う。こんなにも自分のことを正直に語る場があるということに・・・。

「ここの患者さんは目標がしっかりしている。薬物依存症から回復したい、薬を止めたいと明確である。クリーンの長いメンバーの話聞くことは、素晴らしいことで、ハイヤーパワーと出会うなど貴重な体験を分かち合うことができる。また、12ステップは実践しないといけないものであり、目には見えないものであるが、またその体験を聞くことができる。自分は共感を示すことしかできないが、とても勉強になる。」ミーティングを終えてから、メンバーに声をかけることもあるという。今ではすっかり溶け込んでいる。

カトリックの教会でも、聖書を中心として話し合う小グループを立ち上げようとしている。神（ハイヤーパワー）の前で、心から自分に正直になるには、AA,NAのミーティングの進め方がモデルになると思う。議論しない、リーダーを作らない、言いつばなし、聞きつばなし・・・そして、12ステップを誠実に実践した人々が、人間として成熟されているのを見ると、教会もその中から大切なものを学びたいと思うのである。と中込先生は語る。

中込先生のミーティングを終えた後の口癖は、「よい勉強をさせていただきました。」そして「私がお邪魔になりませんか？」である。先生の謙虚な人柄がにじみ出る言葉にいつも感動してしまう。



ミーティングに加わる中込先生とメンバーたち

司法プログラム研修受け入れ実施中！

弁護士や裁判官の卵の司法修習生の研修受け入れを実施しております。過去には57期、58期、59期司法修習生の約20名の研修を行いました。司法修習生、保護司、法学部、大学院生などアパリの司法プログラムに興味のある方はご連絡ください。研修内容はご相談に応じます。研修費用は無料ですが、献金にご協力いただいております。

アパリ藤岡研究センター 入寮者からのメッセージ

「保釈プログラムでアパリ藤岡に入寮して」・・・ ヨシ 40代男性

今、ここアパリ藤岡研究センターの一室で、一人荷作りをしています。約1ヶ月半という短い間でしたが、これからの僕の人生において、間違いなく重要な1ヶ月半でありました。後で振り返ったときに、「ああ、あの時に・・・」とか「あそこが何度目かのスタートだった・・・」とか思い出すんだらうなあ。。。

やっぱり覚せい剤なんてコントロールできる訳なかったんですね。もっと早くアパリに繋がってれば、逮捕されることも生活破綻者になることもなかったんじゃないか？などと考えてしまう訳です。

でも、変な言い方ですけど、今回逮捕されてアパリに繋がったことが良かったと言うか。あのまま逮捕されず、アパリの存在も知らずにズルズル薬を使い続けていたら、とてもキツイ生活になっていったらうし、きっと良くないことが待っていたのかなあと思います。今この時点だから得られるサポートが絶対あったんだと思う。アパリの司法プログラムは、僕らのような保釈中の薬物依存者にとってはとても有難いものだし、家族のアパリでの研修に対する理解、人間的に信頼できる弁護士さんとの出会いも、タイミングと言うか。ちょっとハイパーパワーを感じてしまいました。

僕にとってアパリでの生活は新鮮と喜びの連続です。何が変わったって夜型で朝が異常に弱かった僕が、目覚まし1つで自分で起き上がっているという事実！そして、自分のことをじっくり考えるようになったんです。僕はほんとに自分のことを考えるのが不得意で、と言うかこれまで全然考えたことがなかった。それがここでのミーティングで、同じような境遇や経験をしてきた仲間のお話を聞いているうちに、自分が薬に手を出してしまった理由が、仕事のストレスや犬の死によるうつ状態からの逃げたいという気持ちもあったけれど、それだけじゃなく、薬物に対する認識の甘さがあったということ。自分が依存症であるという意識が低かったのだと思います。いつでもやめられる、大事な時にはシラフでいられるとタカをくくっていたんですね。でも、薬はコントロールできるようなものではなく、ドロ沼にはまり、このままではあらゆる全てのものを失うことになるかと気付きました。

ここアパリに行き着いたタイミングや過程はハイパーパワーがあったのかもかもしれません。でも、こういうことを気付かせてくれたり、自分が回復し始めているんじゃないかと思えるのは、仲間とアパリのスタッフ、そしてここ藤岡のスタッフのリアルパワーのお陰ですよ。

尾田さんと、僕の依存度についての話をしていた時、ハッとすることがありました。尾田さんは優しい顔とあの声で、何とはなしに投げかけた言葉だったと思うのですが、僕にはとても重い言葉で、僕は精神障害などは現れていないけれど、だからと言って依存症という病気をナメてかかってはいけないんだと素直に受け止められました。入寮生に大人気の川口カウンセラーには、新しい刺激を求めやすく薬にスリップしやすい僕の性格を指摘され、ここが僕にとっては一番難しいのだけれど、そんな自分の性格の弱いところをどうコントロールしていくか、まだ答えは見つけ出せていない。でも、スタッフや仲間の力を借りてプログラムを続けていけば、何か気付くことができるのではないかと感じています。藤岡の施設長の実践的でタメになるマシンガントーク。そしてスタッフTさんの母性本能くすぐり系とも言うべき男気。本当にスタッフがいい。冗談めかして書いたけど、実は、施設長とTさんを見ていて、NAの基本原則とも言うべき「薬をやめ続ける」という概念を理解できたんです。

さて、僕は二日後に判決を迎えます。逮捕は二度目（二度とも覚せい剤）なので、執行猶予がつくか実刑になるか微妙なところなんです。最初アパリに来た動機は、ここに来ることで何とか実刑を免れるかもしれないという不純なものでしたが、今は執行猶予だったら勿論、実刑だとしても刑期を終えてから、じっくり9ヶ月の回復プログラムを受けて、新しい自分を見つめたい。そして、薬に手を出さないでいられる自分を一生続けていきたい。

将来、社会復帰しても、NAに参加し続けるつもりですが、それでもまだ、自分を見失いそうになってしまったら、またここに逃げてきますよ。スタッフはいい迷惑だろうけど、構わず駆け込みます！それが出来るってことは僕には大きな事だから。逃げ場じゃないけど、拠り所があるって思えば、それだけで強くいられる気がするんです。

そういう訳で、今、二日後の判決で実刑を受けることを想定して、出発の用意をしている訳です。では、まだ荷作りが残っているので、この辺で・・・。

スタッフより：

ヨシさんは第一審で懲役2年を求刑され、懲役1年4月の実刑判決が下されました。しかしその日のうちに再保釈決定が出て、現在アパリ藤岡でプログラムを継続しています。覚せい剤事件の場合、執行猶予期間が満了して5年以上経過しないと、再度の執行猶予はもらえないというのが現状です。ヨシさんのように回復に意欲的な人に対して、もっと柔軟な判決があればと思います。控訴審でどうなるのでしょうか・・・

刑務所内グループミーティングを見学

「医療刑務所での教育プログラムに参加して」 研究員 嶋根卓也

2006年2月21日 13:30～15:00

日本ダルクのメンバーによる、八王子医療刑務所での教育プログラムに参加する機会を得ましたのでご報告します。

来年度のカリキュラム作成のお手伝いをするために、現場を見せていただくことが訪問の目的でした。これは法務省で行っている特別改善指導として昨年12月から月に4回行われているものです。初入（初めて刑務所に入所した者）の薬物事犯者6～8名を対象に、ダルクメンバーがファシリテーターとなって、刑務所内で12stepミーティングを行います。教育の担当教官によると、プログラムを開始した当初は、自分に向き合い、自分の言葉で発言することができなかつたとのことでした。しかし、ダルクのメンバーが継続的にかかわることで、ミーティングの意義も理解されはじめ、グループとしての仲間意識も徐々に芽生えてきているとおっしゃっていました。今回は、「疲れたこと」をテーマにこれまでの人生を振り返っていただきました。直接的に薬物に関することをテーマに挙げるよりも「これまでの楽しかったこと」、「これまでに泣いたこと」といった具合で、より身近なテーマから入った方が参加者には答えやすいようです。

刑務所という場で、受刑者と回復のモデルとしてのダルクメンバーが出会うことは、それ自体にアウトリーチ活動としての重要な意味があると思います。そんな素晴らしい活動のお手伝いができることに感謝しております。

しよくざい

贖罪 寄付を受け付けています！

薬物事犯で逮捕された刑事被告人の贖罪寄付を受け付けます。アパリにご寄付いただいた後、領収証と感謝状の発行をいたします。それを裁判の参考資料となるようお手伝いいたします。

寄付の用途をご指定することもできます。例えばリハビリ施設の修繕費用や国際協力活動など。ご希望の方はご相談に応じます。

【贖罪とは、罪を償うという意味です。】

アパリ 新会員募集！！

平成18年4月より新規会員（正会員・賛助会員）を募集いたします。ご入会していただいた方には、会報「フェロシップ・ニュース」を毎号お送りします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。

正会員になられた方の特典は、年に一度の総会に参加し、意見を述べることもできます。

アパリは立ち上げて7年目に入った組織です。今後も、薬物関連問題の新たなシステムとネットワーク構築のために全力を尽くしていく所存です。APARIに関するご意見ご要望がございましたらいつでもご連絡ください。

年会費 正会員：12,000円 賛助会員：6,000円

新規会員

同封の郵便振替用紙にて正会員・賛助会員のご希望の方に丸をつけ、必要事項をご記入の上、郵便局にてお振込ください。領収証を発行を持って受付とさせていただきます。

継続会員

継続の会員の方も平成18年度の会費の納入をお願いいたします。同封の振替用紙にてお振込ください。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部

〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
メールアドレス：info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター

〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に9ヶ月

【入寮費】

月額16万円(生活保護の方も可能)



ホームページもご覧下さい
<http://www.apari.jp/npo/>

編集責任者
志立玲子
平成18年3月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

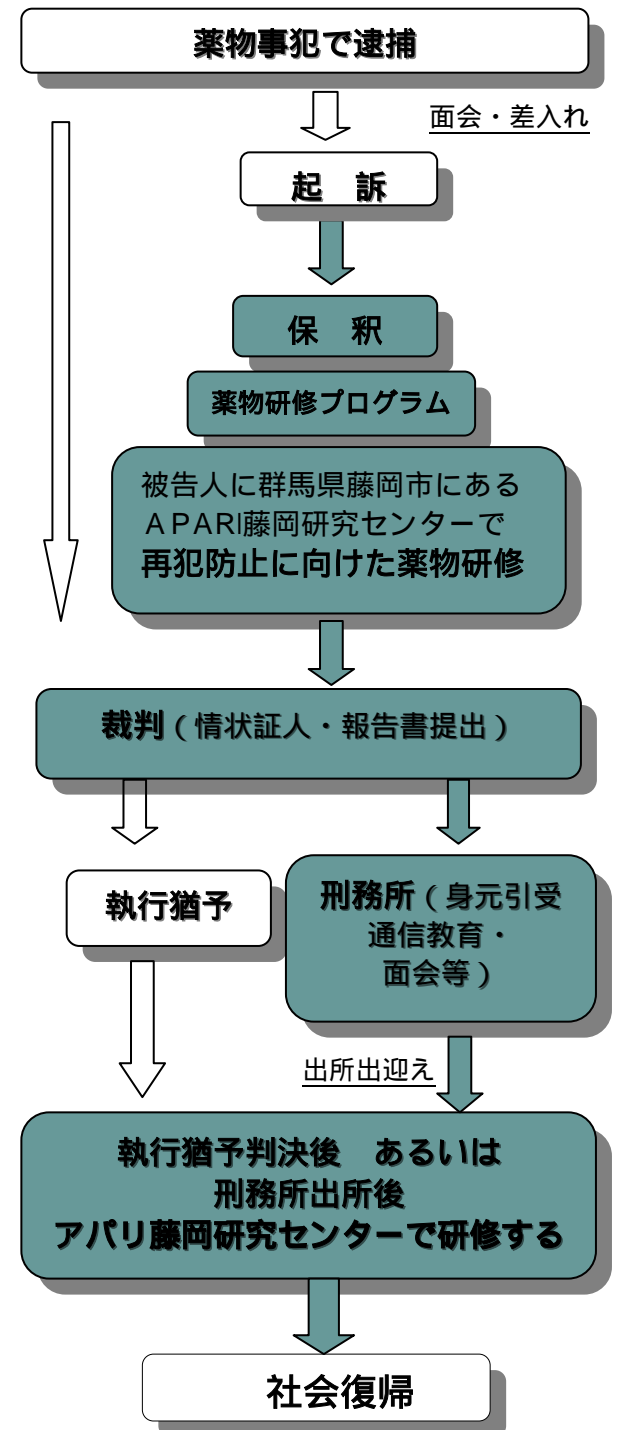
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないうまま 執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において初めて、**刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です] お問合せは東京本部まで

アパリでの支援



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

日時：第1・第3月曜日18：30～21：00
第4日曜日14：00～16：30

場所：アパリ東京本部 2階

参加費：3,000円

【お問合せは東京本部まで】

<個人カウンセリング>

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える本人、家族など

費用：1時間9,000円

場所：アパリ東京本部内

カウンセラー：川口るり子

[薬物依存症専門カウンセラー。米国薬物依存症リハビリ施設でカウンセラーとして勤務経験あり] 英語でのカウンセリングも可能

<アパリクリニック上野>

医療社団法人アパリ アパリ・クリニック上野は薬物依存症専門のクリニックです。NPO法人アジア太平洋地域アディクション研究所(APARI)と連携し、保釈プログラムを利用されている方の診療や、アパリ藤岡研究センターへの往診や訪問看護も行っています。

初診日 = 土曜(完全予約制)

予約は電話かメールで受け付けています。
10：00～16：00 日曜、祝日休診

<家族相談・精神保健福祉相談>
費用：一回 3,000円

〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話：03-5827-1020
FAX：03-5830-1791
メールアドレス：clinic@apari.jp
<http://www.apari.jp/clinic/>